

バスケットボール競技における 4 メンアウト・1 マンインサイドのリバウンドの重要性

The importance of internal rebounds of the formation of four men out and one man inside in the game of basketball

1K04B053

指導教員 主査 倉石 平先生

風間 俊亮

副査 太田 章先生

【緒言】

バスケットボールにおける試合の勝利への条件は、より多くのシュートを決める事であり、その要因としてシュートチャンスを多く獲得する為にリバウンドボールの獲得数を多くする事が挙げられている。そこで、現在の日本代表及び我がW 大学において多く使用されている4メンアウト・1マンインサイドというセットとリバウンド数の関係及び勝利への影響を結論づけたいと思った事が研究動機であり、リバウンドの重要性及びそれ以外の試合の勝利への大きな要因を導き出す事で今後の指導の上での参考数値として生かしていく事が目的である。

【方法】

平成21年度9月19日～11月1日に開催された第85回関東バスケットボールリーグ戦男子2部の4メンアウト・1マンインサイドを使用している3チームのリーグ戦14試合を分析対象とする。関東大学バスケットボール連盟が記載した各チームの試合のボックス・スコアを利用し、オフェンス・リバウンドとトータル・リバウンドの獲得本数、更にシュートを多く入れたほうが勝利に結びつくスポーツの為、攻撃回数も集計し、傾向を検証した。

【結果】

オフェンス・リバウンドの獲得本数が相手チームより勝っている状況であっても必ず試合結

果に影響するとはかぎらなかったが、相手チームとのトータル・リバウンド数での優劣は勝敗の結果に大きく影響していた。同様に、オフェンス・リバウンドの獲得本数と攻撃回数が相手チームよりも勝っていた場合、勝利に大きく影響していたが、トータル・リバウンドの獲得本数と攻撃回数に勝敗の影響があるとは断定できなかった。

【考察】

リバウンド数と試合の勝敗について、影響が少ないもしくはない事の要因として、シュート成功率が相手より劣る事が一番の要因として挙げられる。リバウンド以外にもシュート成功率が、試合の勝敗に大きく関係すると言う事ができた。

リバウンド数と攻撃回数の勝敗の影響について、影響が少ないもしくはない事の要因として、ターンオーバーが相手よりも多い事が一番の要因として挙げられる。攻撃回数においてもリバウンド以外にターンオーバーが大きく影響すると言う事ができた。

【結論】

上記の事から試合の勝利に影響を及ぼす要因はリバウンドも挙げられるがそれ以外にも多々挙げられる事がわかった。さらに今回の研究によって一部分のみであるが、リバウンド占有率、シュート成功率、ターンオーバー数が大きな要

因として挙げられることがわかった。そこで3項目に対し勝利への目標数値を導入し、リバウンドの占有率を60%以上にする、自チームのフィールドゴールパーセンテージを50%以上にする、相手チームのフィールドゴールパーセンテージを40%以下にする、自チームのターンオーバーを10回以下にする、相手チームのターンオーバーを20回以上させる。の5項目を選定の上、3項目以上を満たしている場合は、ほぼ全ての試合に勝てると結論づけた。ちなみに3項目以上満たしていた試合は、リーグ戦全36試合中3試合ありその結果は全て勝利を生んでいた。以上の事からリバウンドはそれのみで勝利を決定づける事はできないが影響を及ぼす大きな一要因として挙げられる事ができる。